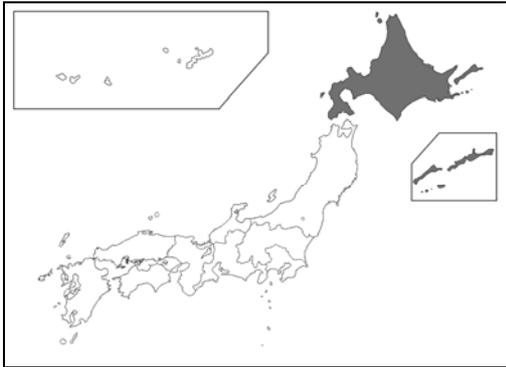


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直し基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

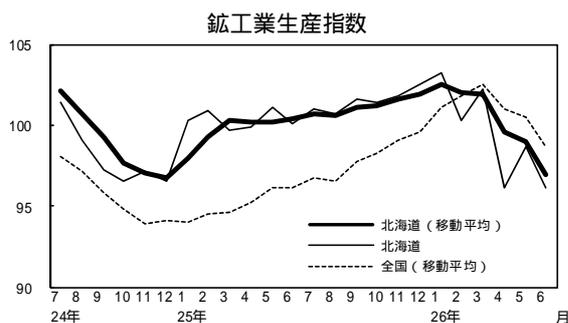
	前回(平成26年5月)	今回(平成26年8月)
景況判断	持ち直し基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	持ち直し基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある
観光	増加	おおむね横ばい
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業の水揚量ともに前年を下回っている。
4～6月期には、生乳生産は、乳製品向けが減少したため、総量では972,882tと前年比3.1%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が減少したため、前年比24.4%減となった。

(2) 鉱工業生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。

4～6月期には、食料品は、ビールが消費税増税前の駆け込み需要の反動減等から減少した。パルプ・紙は、衛生用紙が消費税増税前の駆け込み需要の反動減等から減少した。電気機械は、一部品目について生産体制の見直しがあったこと等から減少した。鉄鋼は、鋼半製品及び普通鋼棒鋼が道内の建設需要の好調に支えられたこと等から増加した。輸送機械は、自動車駆動伝導装置が北米向けの販売が好調であったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値ウェイト	生産				
		1～3月期	4～6月期	4月	5月	6月
食料品	24.2	1.3	3.1	3.9	3.5	2.6
パルプ・紙	11.9	3.8	6.4	10.8	4.1	3.3
電気機械	11.7	3.7	14.4	16.2	9.1	7.2
鉄鋼	7.5	10.1	0.2	4.7	4.7	4.1
輸送機械	7.0	8.4	3.2	9.6	1.2	3.7
鉱工業	100.0	0.0	4.8	6.0	2.7	2.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

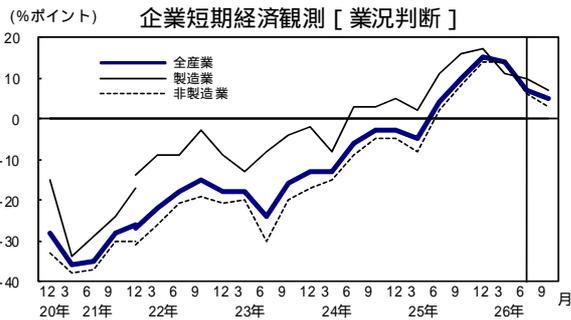
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

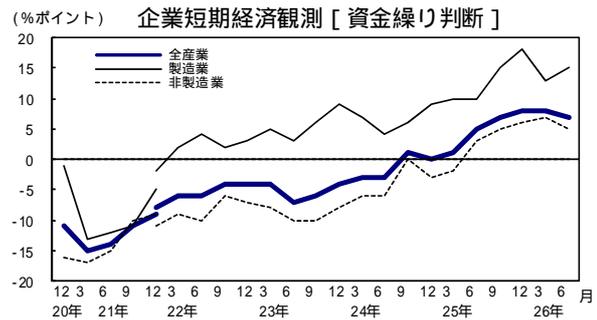
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

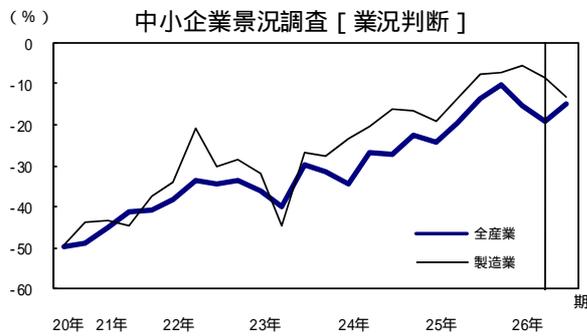
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年9月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

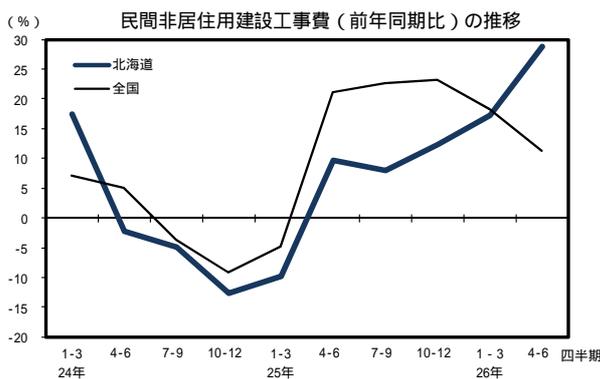


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「最近取引先において、安い物を購入しようとする姿勢が非常に目立っている(コピーサービス業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



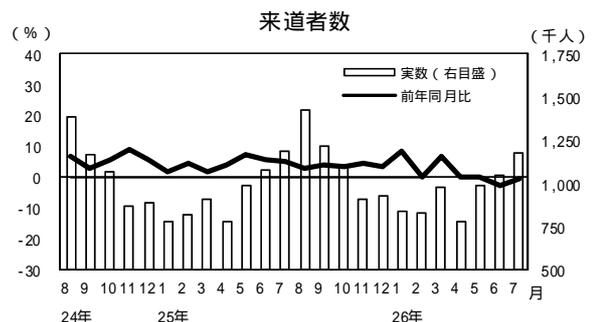
企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績	26年度見通
全産業	0.8(6.6)	16.4(7.9)
製造業	14.7(15.1)	1.2(8.7)
非製造業	15.6(0.5)	28.9(7.4)

(備考) 1.()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。
2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は、おおむね横ばいで推移している。来道者数は、悪天候に伴う航空機や列車の運休の影響等により減少した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比10.7%減、5月は同2.2%増、6月は同0.6%増となった。

大型小売店販売額

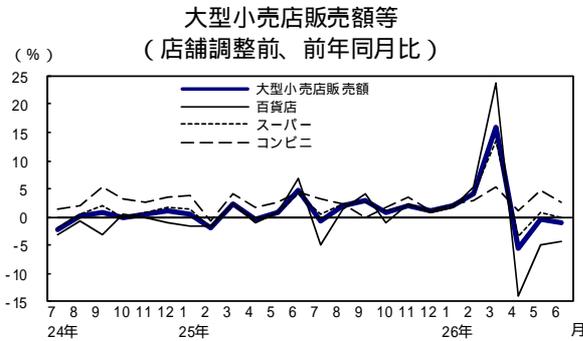
百貨店は、4月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他の全ての品目が消費税増税前の駆け込み需要の反動の影響等から前年を下回った。5月も、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他の全ての品目が消費税増税前の駆け込み需要の反動の影響等から前年を下回った。6月は、飲食料品が前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品が天候不順の影響等から前年を下回った。

スーパーは、飲食料品は好調だったものの、消費税増税前の駆け込み需要の反動や6月の天候不順の影響等により前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、49.1となり前月より2.6ポイント上昇した。

「取引先の経営者と話をしても、前向きな発言が増えてきており、明るさがみられるようになってきている。なかには、店舗を拡張したいという希望も持つ経営者もみられるなど、今までにはなかったような傾向が出てきている (一般小売店 [酒])」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

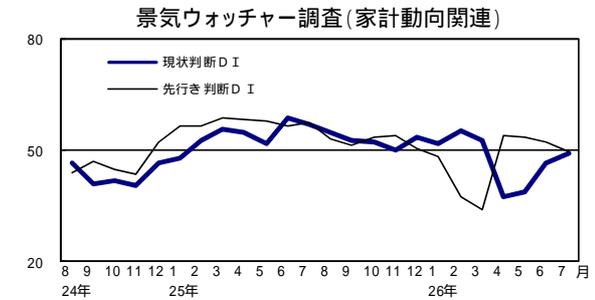
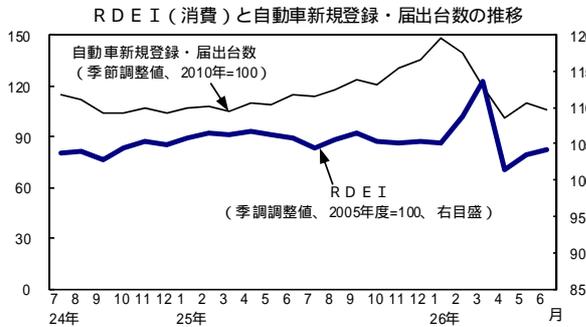


	26年4-6月	26年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	5.6	10.7	2.2	0.6
大型小売店 (*2)	2.4	5.7	0.4	1.1
百貨店 (*2)	7.8	14.0	4.9	4.5
スーパー (*2)	0.9	3.5	0.8	0.1
コンビニ (*2)	2.8	1.0	4.7	2.5
乗用車 (*3)	5.5	9.1	2.7	4.6
(季節調整値) (*3)	22.4	16.0	8.6	3.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

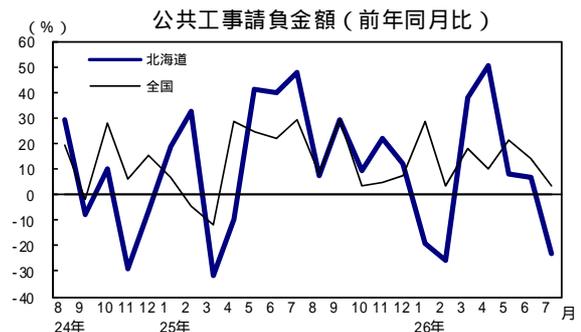
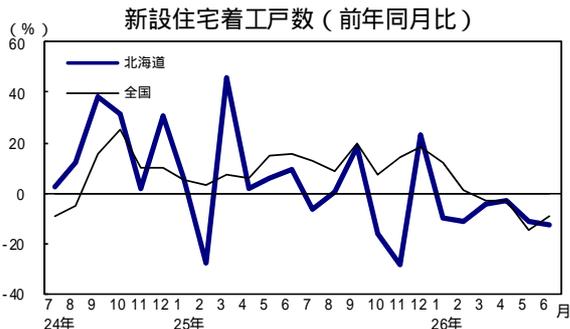
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を上回っている。

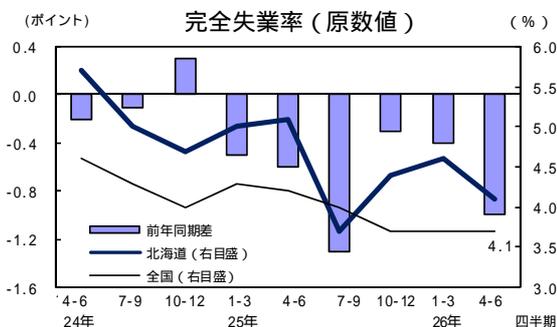
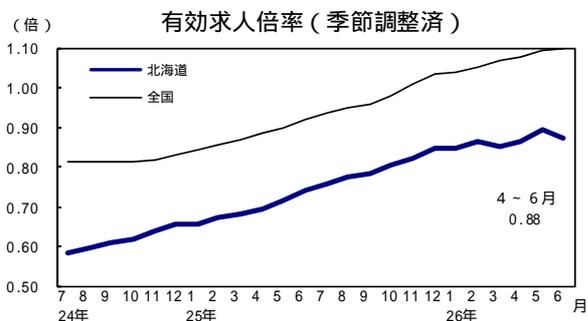


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

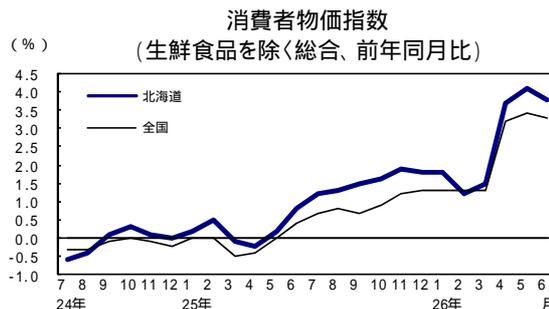
「一部の業種で求人数の減少がみられるものの、全体としては求人数の増加傾向が続いており、企業の採用意欲が高くなっている (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年7-9月	10-12月	26年1-3月	4-6月	26年7月
倒産件数	76	69	92	77	24
(前年比)	29.6	23.3	16.4	19.8	11.1
負債総額	126	139	157	176	36
(前年比)	13.3	35.7	54.1	96.7	34.9



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・これまで価格に敏感であった顧客が、最近は納期や品質を優先させるようになり、価格に対する感度が緩やかになってきている。これらは景気の好循環の表れである (通信業)。

<先行き>

・ガソリン価格などの物価上昇により、購買意欲が低下することが懸念される (その他専門店 [造花])

景気ウォッチャー調査 (合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

